



○学校再開に向けて

3月初めから3か月間、戦後初めてである「全国一斉臨時休業」が実施されました。未だかつて経験したことのない事態に直面し、学校だけではなく社会全体が混乱した3か月でした。そしてまた、この先もその不安が完全に取り払われることはなく、「新型コロナウイルス」と共に生きる「新しい生活様式」で生活を送ることが求められています。

このような出来事に遭遇すると、様々なとまどいや不安が沸き上がることも多いと思います。しかし、歴史を紐解いてみると、「何も出来事が起こらなかった時代」の方が珍しく、どちらかというとなんな出来事に遭遇し、それを克服してきた事実が人類の歴史と言うことが出来るのではないのでしょうか。

有名な奈良の「東大寺の大仏」は当時、全国に天然痘が流行し、国民の3割にも上る犠牲者が出たため、仏教の力で国を安泰にすることを願って聖武天皇の命により建立されたと言われています。14世紀にはヨーロッパで「ペスト」が流行し、当時のヨーロッパの人口の3分の1にあたる人が犠牲となり、さらに20世紀の初めにはスペイン風邪と呼ばれる感染症により、全世界で4000万人以上の方が犠牲になりました。それ以外にもSARSやMARSと言った感染症が流行したのも記憶に新しいところです。

今回の新型コロナウイルスが世界的流行となった一つの要因として、グローバル化が挙げられます。かつては、一つの国で流行したものが他国に流入するには時間がかかったり、場所が限定されたりしていました。しかし、グローバル化が進んだ現代では、一つの国で起きたことがあつという間に全世界規模で広がってしまいます。インターネットが発達し、世界中の情報が一瞬にして得られたり、外国に気軽に行けるようになったという利便性が得られた反面、今回のような事態が起こりやすくなります。何事にもメリット・デメリットがあるということでしょう。

もう一つ、「新しい生活様式」で考えなければならないのは、「正解がない」ことです。もちろん、ガイドライン等で示された「こんなことに気をつけよう・このように行動しよう」という目安はありますが、一人一人の生活場面になると、その場その場で対応を考えなければなりません。また、これから自分の身の回りが、日本全体が、世界全体がどのようになっていくのかは、誰にも分かりません。そのため、一人一人が正しい判断・行動をすることが求められます。

令和3年度から完全実施される新しい学習指導要領は「主体的・対話的で深い学び」の実現をうたっています。新型コロナウイルスへの対応はまさに「主体的」に正しい判断・行動をするために、様々な人たちや情報と「対話」し、それが正しい事か否かを「深く考える」ことが求められています。つまり、学校生活の中で身に付けるべきことは、すべて社会の課題に対応するための術を学ぶことと同意語なのです。

現在、世界中で新型コロナウイルスに対するワクチンや治療薬等の開発が急ピッチで進められています。おそらく、そう遠くない未来にそれらが出来上がり、新型コロナウイルスも終息の日を迎えることと思います。しかし、それが実現した後も新たな感染症や人類に対する課題は出現してくるのではないのでしょうか。その時はまた人々が英知を絞ってそれに立ち向かうことでしょう。

今、わたしたちにできることは、状況を冷静に正しく判断して、行動に移すことではないのでしょうか。 **Think Globally Act Locally!**



